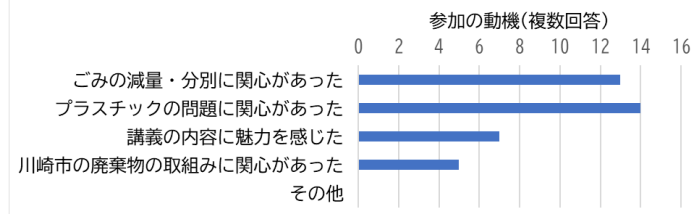
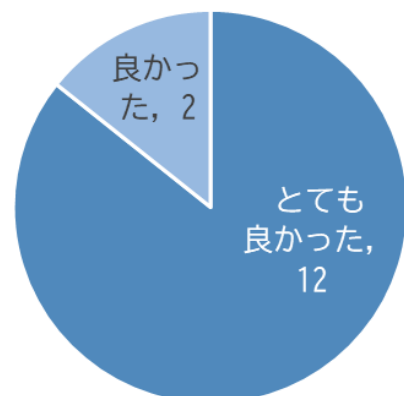


第2回ごみゼロカフェ 参加者の感想

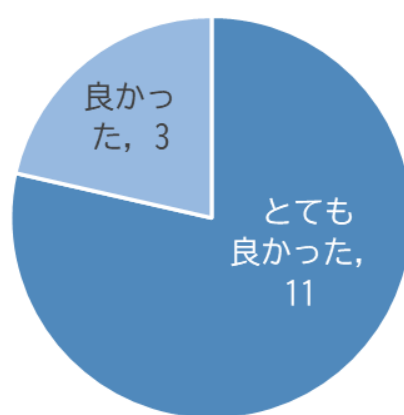


第1部(講義)について



- ・分別した紙の細分別についてわかった。
- ・人に知らせることが、自分の理解が深まるうえに行動につながるというお話が印象的だった。
- ・賢いプラスチックの利用の説明や、一人一人の行動が大切ということが整理でき、分かりやすかった。人に伝えるときの参考になった。

第2部(ワークショップ)について



- ・色々な人の話や意見を聞くことができて学びになった。
- ・皆さんが取り組んでいることを知ることができた。
- ・良い話し合いができた。
- ・自分なりの理解度の違いが分かった。
- ・新しい発見があった。
- ・疑問が違っていても知り良かった。

その他意見・要望等

- ・人が集まって色々感じ方が違う中で話ができるのは参考になって良かった。
- ・外国人市民の方もいらしたので、UDトークや翻訳アプリを使っていたら良かったかもしれないと思った。



今後希望する講座等

- ・マイクロプラスチックについて
- ・楽しい生活が環境に優しい持続可能な社会につながる
- ・コンポストについて

～ごみゼロカフェサポーターになりませんか？～

“ごみゼロカフェ”は、様々な市民が施設見学や講師からのお話を通して、ごみの減量化・資源化について考えるイベントとして年3回開催します。カフェのようにくつろぎながら意見交換し、ごみの減量化のアイデア出しをしていきます。“ごみゼロカフェ”では、ワークショップの進行や受付等運営のお手伝いをしていただく“ごみゼロカフェサポーター”を募集しています。

▼サポーターの詳細はこちら▼

川崎市ごみゼロカフェ



お問合せ先

川崎市環境局生活環境部減量推進課
TEL:044-200-2580 FAX:044-200-3923 E-Mail:30genryo@city.kawasaki.jp



令和5年度 第2号

第2回ごみゼロカフェ 開催報告

ごみゼロカフェ NEWS



誰でもできる工夫でワンウェイプラ削減！
賢くプラスチックを利用してごみゼロへ！

第2回では、プラスチック問題にフォーカスし開催しました。長年、ごみの減量化や資源化等に向けた活動を行っている講師の講義もとても分かりやすく、ゲーム形式を取り入れたワークショップも楽しく、参加者間の意見交換の時間もとても活発でした。

講師 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 鬼沢 良子 氏

第1部(講義)

プラスチックのリサイクル、資源の有効活用について

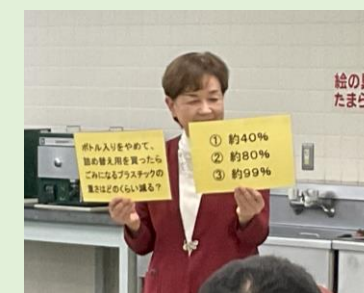
「プラスチックのリサイクルの現状」「ワンウェイプラ削減の方法」「資源の有効活用」等について講義いただきました。



第2部(ワークショップ)

容器包装の3Rビンゴカード体験&意見交換

ゲーム感覚で知識が広がる“3Rビンゴカード”で楽しく学んだ後は、参加者間でプラ削減に関する意見交換を行いました。



第2回 ごみゼロカフェ 開催概要

- 《開催日時》 2024年1月21日(日)10:00～11:30
- 《開催場所》 高津市民館 実習室
- 《参加者》 14名
- 《内容》 “プラスチック”をキーワードに、講義とワークショップの二部構成で開催しました。



第1部(講義)

プラスチックのリサイクル、資源の有効活用について

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 鬼沢 良子 氏 より、今回はプラスチックごみに関する講義をしていただきました。
鬼沢氏の長年にわたる活動も含め、とても分かり易い内容で、プラスチックごみ削減に向けて、とても有意義な学習の場となりました。

<主な講義内容> プラスチックのリサイクル、資源の有効活用について以下の説明がありました。

- プラスチックのリサイクルの現状
- ワンウェイプラ削減の方法
- 資源の有効活用について



NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 である 鬼沢 良子 氏による講義の様子



第2部(ワークショップ)

容器包装の3Rビンゴカード体験&意見交換

第2部では、実際にプラスチックから再生したごみ袋の触感等を体感したり、ゲーム感覚でクイズの回答を反映するビンゴ等、楽しく学習できるプログラムでした。
参加者からは、その後の意見交換の場でも積極的に意見が交わされ、参加者の意識の高さがうかがえました。



プラスチックから再生したごみ袋を実際に触れてその触感や外観を体感しました



ゲーム感覚で楽しめる“3Rビンゴカード”



グループ間で意見を出し合い、発表しました

～第2部のグループ間での主な意見

●本日一番気になった情報

- ・事業者や販売店の姿勢や方向が良い方向に変わってきた。消費者にいまいち伝わっていないのが残念。
- ・情報を人に伝えることがとても大切だと思った。伝える相手によって情報の伝え方、内容が異なると思う。
- ・人に伝えることは理解が深まるだけでなく自分の行動につながる。
- ・わかったことを人に伝えることの大切さ。
- ・情報を得ることは大事で、知ったら周りの人に少なくとも5人に伝える意識を持つこと。伝えることで自分知識も深まる。
- ・レジ袋の有料化の成果、紙パックの回収率
- ・紙パックリサイクル率が30%であること。
- ・川崎でもコアレックスのトイレットペーパーを売る店が増えるといい。
- ・川崎市内で紙をトイレットペーパーにリサイクルされていることを知らなかったのが驚いた。
- ・牛乳パック6枚でトイレットペーパー1個できる。

●分け方出し方で迷うポイント

- ・プラスチック製品と容器と一緒に集めることは本当にリサイクルにとって良い方法なのか？
- ・プラマークのない容器包装をついリサイクルへ入れている。
- ・透明なトレイは回収できないのか？
- ・複合素材でマークがないもの
- ・汚れのついたものを分別するとき。
- ・汚れているプラ容器
- ・においの強いものが入っているものは、普通ごみになるのか？
- ・アルミコーティングのものは何に入れるか？
- ・容器はどこまで汚れを落とす必要があるか？
- ・リチウムイオン電池、ボタン電池の出し方がわからない。
- ・リチウムイオン電池が入っていることを大きくわかりやすく明示する！
- ・電池類の分別

●プラ削減のため今日から実践できること

- ・店頭で回収しているボックスはもっと積極的に利用する。
- ・コンビニのプラごみ回収方法の検討。
- ・バックで売らないでもらいたいとスーパーや企業に要望のメールを書く。
- ・3Rのうちできるだけリデュースを重視し、次にリユース、リサイクルは最後に。
- ・住んでいる自治体のルールの確認。
- ・詰め替え製品をもっと使う。
- ・不要なものは手にしない。
- ・量り売りの物を購入する。
- ・自動販売機のもを量り売りへ
- ・スーパーマーケットでプラ容器に入れないようにする。
- ・ワンウェイプラ容器を避ける。
- ・プラのワンウェイのものは使わないことを、常に意識する。
- ・PETボトル飲料を極力買わない。

<鬼沢氏コメント>

- ・プラスチック新法ができ、プラスチック容器と製品の両方を収集・リサイクルすることは、プラスチック全体の削減のために意味のあることである。例えば、衣装ケースは単一素材でリサイクルしやすいがこれまで焼却されていた。試行錯誤もしながら削減していくことになると思う。
- ・川崎市ではリチウムイオン電池は、販売店や回収協力店での回収を利用することになっている。リチウムイオン電池が内蔵されたまま排出すると発火の原因になるため、プラスチック製品にリチウムイオン電池を含むものを入れないことが大切である。
- ・プラスチック容器はざっと洗うことで十分で、キムチの容器のようににおいが取れないものは燃えるごみで出してください。